

令和元年 第十五期くまもと俳句ポスト  
第十五期開函

日本伝統俳句協会副会長 岩岡 中正 選

特選

避難所のむすびの記憶木下閣 きのしたやみ 熊本県熊本市 野崎一雄

【講評】

もう三年もたったあの熊本大地震。今なお仮設住宅住まいの人たちもいるが、今でも茂った夏木立の下閣に入ると、あの震災の苦勞がおむすびの白の一点からよみがえるという。たしかな記憶を基にした物語性と詩情がある。

わが輩通り賞

カルデラは逆さ五岳の植田かな うえた 熊本県熊本市 佐藤誠吾

入選

涅槃西風水俣湾はわが浄土 ねはんにし 熊本県熊本市 鶴田信吾  
くまもんの帽子で乗車麦の秋 長崎県諫早市 麻生勝行

太陽の一欠片なり冬の鷺 ひとかげら さぎ 東京都練馬区 三嶋浩樹

佳作

山は生きてゐるそこにも 薇 せんまじ 熊本県熊本市 倉岡皇至  
新緑に囲まれて今田原坂 福岡県北九州市 小宮直子  
春日傘たゝみ八雲の旧居訪ふ はるひがさ 熊本県熊本市 野口美智

子

神と医師信じよと初みくじかな 熊本県合志市 坂田美代子  
満開の桜のごとく散る命 熊本県菊池市 太田琴乃  
老鶯なく峠の茶屋は今日も留守 熊本県熊本市 林田秀久  
田原坂はるかにみどりの山野あり 高知県南国市 山崎信秀  
桜はらはら義を貫きし古戦場 熊本県熊本市 熊谷尚子  
阿蘇に咲く野の花散らし紙を漉く 熊本県熊本市 山崎綾子  
春雨や弾痕濡るる田原坂 埼玉県川口市 井上裕太

投句総数 二百十一句  
市外 百二十六句  
市内 八十五句

開函日 令和元年六月三十日